

大手川の概要

大手川は、宮津市小田の大江山山系ふこうとうげ普甲峠を源流として北流する二級河川であり、河口付近がかつて宮津城の大手外堀に利用されていたことから、それが名前の由来となっています。

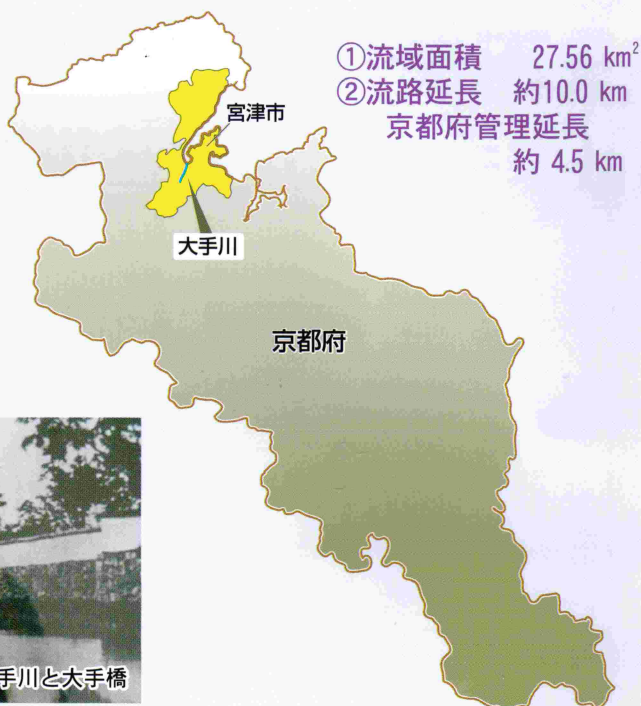
大手川下流は宮津市の中心市街地を流下しており、周辺には都市機能が集中しています。

しかし、平成16年10月20日の台風23号により2,400戸を越える家屋の浸水被害が発生しました。

そこで、京都府では国の「河川激甚災害対策特別緊急事業」の採択を受け、安心・安全を最優先に抜本的な河川改修を行いました。

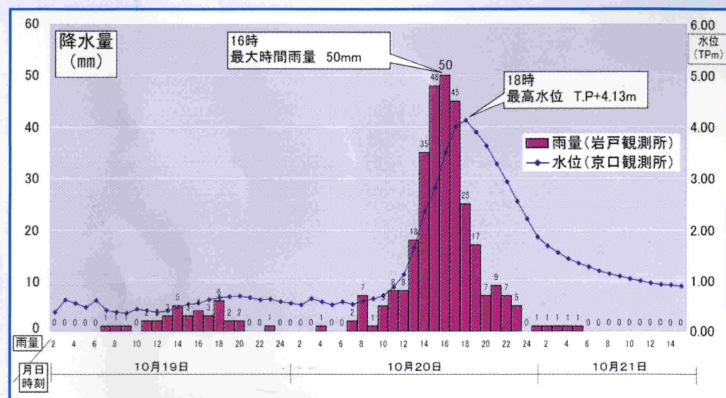


宮津城の外堀であった大手川と大手橋



台風23号出水被害状況

～宮津では観測開始以来、最大の時間雨量50mmを記録～



京口橋付近 (イメージ写真)

台風23号は大手川上流域において、日雨量298mmがんど (岩戸観測所) の大雨を降らせました。この大雨により大手川が氾濫し、宮津市中心市街地のほぼ全域が浸水するという甚大な被害が発生しました。

上の図は、雨量と水位の変化を表したものです。10月20日午後3時から4時までの1時間で50mmの雨が降り、水位は午後6時に最高水位T.P.^{*}+4.13mを記録しました。これは右上のイメージ写真に示すように、周辺の地盤から1.26mの高さまで浸水したことになります。

(※) 東京湾の平均海面

